

新聞記事における笑い表現の定量的評価

西尾 修一、小山 謙二、中村 亨
NTT コミュニケーション科学研究所

笑いはヒト特有の感情表出といわれ、円滑なコミュニケーションにとって欠かせない役割を果たすと考えられる。日常生活において最も身近なメディアの一つである新聞記事を取り上げ、そこに含まれる笑いに関する表現について調査、分析した。一年分の新聞記事から笑いに関する表現を抽出し、個々の表現を原因別に快、不快、社交の三種類に分類したところ、5:1:4 の出現頻度であることがわかった。また、笑いの表現、掲載面や出版地域の違いによる出現傾向の変化や、修飾語の有無についても分析した。例えば、大阪版の記事は全国版と比べ、快の笑いが多く、社交の笑いが少ないことがわかった。

Analysis of Laugh Expressions in Newspaper Articles

Shuichi NISHIO, Kenji KOYAMA and Toru NAKAMURA
NTT Communication Science Laboratories

Laugh is said to be an emotional expression unique to mankind, and an essential factor in facilitating smooth communication. In this report, laugh expressed in newspaper articles are investigated. Expressions describing laugh were extracted from newspaper articles over a period of one year. Each expression was classified into three categories of laugh: laugh of pleasantness, unpleasantness and sociability. As a result, each laugh existed in the ratio of 5:1:4. Also, differences in expressions of laugh, pages written, and regions published were examined. For example, articles in Osaka region turned out to contain more laugh of pleasantness, and less laugh of sociability than in those of nation-wide.

1 はじめに

人の感情は円滑なコミュニケーションを行う上で重要な役割を果たしており、この表現方法を知ることがコミュニケーションの機構を理解する上で必要不可欠であるといえる。このため、我々は人の感情がどのように表現され、またどのように受け手に理解されているのかを明らかにすることを目的として研究を行っている。

一般に感情といった場合、様々な種類のもので考えられるが、とりわけ笑いは日常生活において頻繁に見られる感情表出であり、我々に最も親しみが深い感情であると言える。このため、我々は感情の表現の理解の手始めとして、笑いに焦点を当てて研究を行っている。

しかし、一口に「笑い」と言っても、様々な意味の笑いが存在することは、日本語の笑いに関連した語句の豊富さを考えても明らかである。人はこれら多様な笑いに接した際に、知らずと笑いを分類していると考えられる。

また、日常生活において、人は直接的な対話以外にもテレビ放送、活字など様々なメディアを通じて笑いに触れている。こういったメディアのうち、最も身近なものの一つとして、新聞が挙げられる。そこで本稿では、笑いの研究の一つとして、新聞記事における笑いを分析する。

以下、笑いの原因別の分類 [1] を用いて、毎日新聞の一年分の記事における笑いの表現の出現頻度と傾向について調べた結果を報告する。

2 笑いの原因別の分類

我々は笑いを、笑いを受けた者がどのように理解するかに基づき、快の笑い、不快の笑い、および社交の笑いの三つに大別している。以下、各々の笑いについて簡単に触れる。

表 1: 主な面の内容

面名	内容
1面	その日の主なニュース
2面	政治家や国会、官庁の動向
3面	国内問題や、関連した国外情勢
社説	社説や人物紹介などの記事
解説	記者や識者による解説記事
国際	国外の事件や動向の記事
経済	経済動向に関する記事
スポーツ	スポーツ関連の記事
総合	様々なトピックや潮流をめぐる記事
家庭	生活に関連した記事
社会	一般的な事件の記事
特集	特集記事
芸能	映画、音楽など芸能関連の記事
読書	書評など書籍に関する記事
文化	俳句、美術など文化に関する記事
科学	科学の動向の紹介や解説記事

快の笑い

充足感を伴った、喜びや嬉しさを表す笑い。

例) 彼は満面に笑みを浮かべて答えた。

不快の笑い

失望などの不快感や、困惑を伴う笑い。

例) 彼は部下の下らない意見を一笑に付した。

社交の笑い

他者へのメッセージ性が強く、恣意的な要素が強い笑い。挨拶の際に見せる笑いや、愛想笑いなどが挙げられる。

例) 彼は下らない冗談にも笑顔で商談を続けた。

日常的に見られる笑いは、くすぐりによる笑いや病的な笑いを除くと、この三つの要素から構成されていると考えられる。

(笑い)、(爆笑)、お笑い、お笑い草、
 ほほえましい、ほほえみ、ほほえむ、一笑、
 含み笑い、泣き笑い、苦笑、高笑い、
 作り笑い、失笑、照れ笑い、笑、笑い、
 笑っぱなす、笑いとばす、笑いもの、
 笑い声、笑い転げる、笑い飛ばす、笑い話、
 笑う、笑える、笑み、笑わせる、笑われる、
 笑顔、笑殺、笑止だ、大笑い、談笑、
 忍び笑い、破顔一笑、薄笑い、爆笑、
 微笑笑、冷笑、嘲笑

図 1: 抽出された笑い表現

3 集計方法

3.1 集計対象

毎日新聞の1993年の記事一年分を収録したCD-ROM (CD—毎日新聞93版)を用いて、笑いに関する表現(以下「笑い表現」と表記)の含まれる記事を検索、抽出した。この年度の毎日新聞の紙面の分類と、その大まかな内容を表1に示す。

調査対象としたCD-毎日新聞93版には、1面、2面、3面、社会面および総合面について大阪版で全国版と異なる記事も収録されていたため、以下においては区別して表示してある。

まず、全記事について「笑」または「ほほえ」を含む箇所を全文検索した結果、2,295記事(全79,000記事中の2.9%)、3,051箇所を得た。該当箇所のうち、次のものは除外した。

- 固有名詞や、名詞の一部
 例)「笑福亭」、「微笑(雑誌名)」
- 一般的な笑いを表していると思われるもの
 例)『テレビの笑いは…』
- 落語などの「お笑い」を表していると思われるもの
 例)『お笑いを一席…』

この結果、2,052記事、2,577箇所の有効な項

目が得られた。各々の箇所に含まれる笑い表現は、図1に示す41個であった。ここで、同義と思われる単語についてはまとめて集計/表示し、動詞についてもすべて原形にまとめた。例えば「苦笑い」、「にが笑い」、「苦笑」は「苦笑」に、「微笑」、「ほほえみ」、「ほほえみ」は「ほほえみ」にまとめた。

3.2 笑い表現の分類

次に、抽出された個々の箇所を、前述の原因別の分類法に従い、各々の原因について2(主たる原因)、1(副次的な原因)、0(関連なし)の三段階に採点した。以下に例を示す。

例1) 『トップでタスキを渡すとガッツポーズを作り晴れ晴れとした笑顔を見せた』
 … 快2、不快0、社交0

例2) 『皇后さまは、報道陣ににこやかな笑顔を見せ、軽く会釈をされた』
 … 快1、不快0、社交2

ただし、集計の際には副原因は無視し、主原因のみを集計対象とした。

3.3 修飾語

笑いの分類に影響を及ぼす要素の一つとして、笑い表現に係っている修飾語を挙げることができる。例えば「彼は苦々しく笑った」という文を考えると、「笑った」に係る修飾語「苦々しく」を考慮しないとこの「笑った」の原因を正しく分類することはできない。そこで、上記で抽出された各々の笑い表現に係っている修飾語についても調査した。

なお、修飾語についても、同義と思われるものについてはまとめて集計した。例えば、「にっこり」と「ニッコリ」は「にっこり」にまとめた。

4 集計結果

4.1 笑い表現の集計結果

以上の採点結果を元に、原因別、笑い表現別、および掲載面別に集計を取った。笑いの原因別の出現頻度を図2に、原因別に出現頻度が高かった笑い表現を表2に、原因別の頻出面を表3に示す。

また各面の笑いの原因別の分布を表4に、個々の笑い表現がどの原因の笑いとして用いられたかを表5に示す。

表7は、個々の笑い表現がどの面によく出現したかを示すものであり、逆に表8は、各面にどの笑い表現がよく出現しているかを示す。

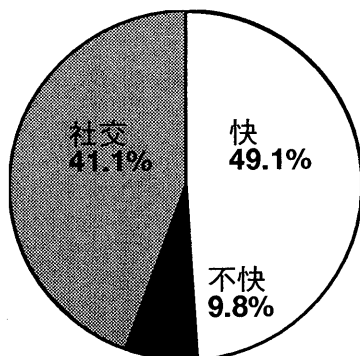


図2: 笑いの原因別の出現頻度

表2: 原因別の笑い表現

主原因	第1位	第2位	第3位	第4位
快	笑顔 37.4%	笑う 22.9%	笑み 10.5%	笑い 6.3%
不快	苦笑 24.5%	笑う 21.3%	笑われる 8.3%	笑い 5.5%
社交	笑う 28.3%	笑顔 23.4%	苦笑 16.9%	(笑い) 13.6%

表3: 笑いの原因別の頻出面

原因	第1位	第2位	第3位	第4位
快	スポーツ (27.9%)	社会 (17.6%)	総合 (14.4%)	家庭 (8.1%)
不快	総合 (16.6%)	社会 (13.8%)	スポーツ (11.5%)	2面 (8.7%)
社交	総合 (23.2%)	社会 (17.9%)	スポーツ (9.2%)	特集 (7.1%)

表4: 各面の笑い表現の原因別頻度

面名	快	不快	社交	出現頻度
スポーツ	73.5%	6.0%	20.2%	18.6%
総合	38.7%	8.9%	52.1%	18.2%
社会	49.7%	7.8%	42.3%	17.3%
家庭	59.0%	4.0%	37.0%	6.7%
社会(大阪)	57.8%	8.1%	34.1%	6.7%
特集	27.0%	5.4%	67.6%	4.3%
2面	16.0%	23.4%	60.6%	3.6%
解説	36.8%	27.9%	35.3%	2.6%
1面	33.9%	22.0%	44.1%	2.3%
総合(大阪)	56.4%	5.5%	38.2%	2.1%
2面(大阪)	50.0%	0%	50.0%	0.4%

表5: 笑い表現の原因別出現頻度

笑い表現	快	不快	社交	出現頻度
笑顔	65.4%	0.4%	34.0%	28.0%
笑う	44.9%	8.6%	46.2%	25.0%
苦笑	5.6%	24.9%	69.5%	9.9%
笑み	69.9%	0.5%	29.6%	7.4%
(笑い)	8.6%	5.5%	85.9%	6.5%
ほほえましい	95.0%	0%	5.0%	0.8%
嘲笑	0%	100%	0%	0.4%

表 6: 各面の笑い表現の比率 (文字数単位)

面名	笑い表現の存在する比率 (100万文字当りの個数)
芸能	56.9
スポーツ	54.5
家庭	52.7
大阪：総合	44.6
総合	41.9

表 7: 笑い表現の頻出面

笑い表現	第1位	第2位	第3位
笑顔	スポーツ (29.9%)	社会 (21.6%)	社会(大阪) (9.1%)
笑う	総合 (24.0%)	社会 (16.1%)	家庭 (11.9%)
苦笑	スポーツ (23.3%)	総合 (17.3%)	社会 (14.1%)
笑み	スポーツ (46.8%)	社会 (19.4%)	総合 (7.5%)
(笑い)	総合 (54.6%)	特集 (18.4%)	芸能 (6.7%)

表 8: 各面に頻出する笑い表現

面名	第1位	第2位	第3位
スポーツ	笑顔 (44.4%)	笑み (18.3%)	笑う (13.3%)
総合	笑う (32.8%)	(笑い) (19.3%)	笑顔 (11.9%)
社会	笑顔 (35.6%)	笑う (23.7%)	笑み (8.4%)
家庭	笑う (44.1%)	笑顔 (25.9%)	苦笑 (7.1%)
2面	笑顔 (25.0%)	苦笑 (21.6%)	笑う (10.2%)
芸能	笑う (29.4%)	笑わせる (15.3%)	(笑い) (12.9%)

4.2 修飾語の集計結果

修飾語が係っていたのは、抽出された笑い表現全体の約16%(415箇所)であった。修飾語についての集計結果を表9および表10に示す。

表 9: 修飾語が係っている場合の原因別頻度

	快	不快	社交
出現数	246	21.5	147.5
出現数の比率	59.3%	5.2%	35.4%
笑い表現のうち修飾語の係っている割合	19.5%	8.5%	14.0%

表 10: 修飾語の原因別頻度

修飾語	快	不快	社交	総数
にっこり	13	0	26	39
満面に	24	0	1	25
会心の	23	0	0	23
いたずらっぽい	4	0	9	13
ニヤリと	3	2	4	9
さみしそうに	0	1	7	8

4.3 結果のまとめと考察

- 快、不快、社交の笑いの割合はほぼ 5:1:4 であった(図2)。演歌系(5:2:3)やPOPS系(7:1:2)[2]での割合と比べて、社交の笑いの割合が高い。
- 「苦笑」は、約7割が社交の笑いとして分類されていた(表2)。該当する記事を見てみると、その多くは「ごまかし笑い」であったり、諷めの感情を伴っており、そのため不快の笑いではなく、社交の笑いとして分類されることが多かった。
例)『専務は、「妙案があったら教えて欲しいよ」と苦笑した』

- 笑い表現の出現数はスポーツ面がもっとも多く、次いで総合面、社会面の順となっている(表4)。しかし、文字当りの笑い表現の出現比率で見ると(表6)、芸能面、スポーツ面、家庭面の順となっており、笑い表現が存在する密度は芸能面のほうが高いことがわかる。
- 笑い表現別では、「笑顔」と「苦笑」が最も多かったのはスポーツ面であった(表7)。優勝などの喜びを表す快の笑いだけでなく、うまくいかなかった感情を込めた笑いの表現も多い。スポーツにはいわゆる人間ドラマが凝縮されているからであろう。
- 全体の分布では、快の笑いはスポーツ面に多いが、不快、社交の笑いは総合面、社会面に多い(表3)。特に総合面では他の面と比べて快の笑いの度合いが小さく、社交の笑いの度合いが大きくなっている。
- 2面では「笑顔」と「苦笑」がほぼ同数、1/4ほどの割合で出現している(表4)。また、2面では不快の笑いの割合が2割強と、スポーツ面などと比べ、倍以上存在している(表4)。概して、1、2面や解説面など、政治的な記事が多い面は快の笑いの比率が低く、不快および社交の笑いの割合が高くなっている。
- 大阪版の記事は、全国版の記事と比べて快の笑いの割合が高くなり、社交の笑いの割合が低くなっている(表4)。大阪の本音の笑いを大事にする土地柄が現れている。
- 修飾語が付与される場合は快の笑いであることが多い(表9)。特に不快の笑いについては、修飾語に係る割合は快の笑いの半分以下となっている。

- 修飾語に係った場合、「にっこり」のように評価が分かれる場合もあったが、「満面に」や「会心の」のように、評価がほぼ一つに集まる場合が多かった(表10)。

5 おわりに

新聞記事における笑いの原因別に分類し、その出現傾向を分析した。この結果、笑い表現や掲載面、地方などによる特色を見いだすことができた。

我々は文字メディアにおける笑いの分析の他に表情や生理的な指標(脳波、筋電図など)を用いた笑いの分析も行っている。このような、人の様々な情動表出について考える際に人が日常的にどのような種類の笑いを見聞きしているかを知ることができると考えている。

今後は、本稿で取り上げたもの以外の笑いの表現(「頬を緩める」といった間接的な表現など)についても調べると共に、新聞毎の違いや、採点者による違いについても見ることを考えている。

また、テレビ番組や小説、雑誌記事など、他のメディアについても分析を行っていく予定である。

参考文献

- [1] 小山 謙二、中村 亨、西尾 修一：
笑いの原因の事例分析、感情心理学研究、p.17、1995
- [2] 中村 亨、小山 謙二、西尾 修一：
演歌における笑い表現の定量的評価、情報処理学会研究報告 人文科学とコンピュータ、vol. 31、1996